

第10回 海岸勉強会メモ

日時:平成20年10月12日(日)

9:00~12:00

会場:石崎浜~動物園裏~レストハウス

[参加者]

- ・一般の方:32名
- ・行政担当者等:13名(宮崎県:河川課・港湾課・宮崎土木事務所、
国交省:宮崎港湾空港整備事務所・宮崎河川国道事務所)

【質疑応答】※全員が集まった中での発言を記しています。

石崎浜にて

- ◇県の緩傾斜堤防は前面の砂浜が消失したので失敗事例ではないのか。
- ◇トレーサー調査は県の時代にも実施しているので、国も参考にすべき。
- ◇アセスを実施して首長の意見を聞くべきではないか。
→アセスに準じた環境調査を実施している段階。

動物園裏にて

- ◇委員会で海中養浜と陸上養浜が近いので影響があるとの発言があったが、その対処はどうしたのか?
→養浜する粒径が違うので調査する上で影響はないと考えている。
- ◇林務護岸の北端部にはなぜテトラが入っているのか。
→護岸端部を守るための措置。
- ◇試験養浜を林務護岸の前で行うことは、護岸が設置される前から行政内の調整を行えなかったのか
→当時委員会でこの調整を行う段階になかった。
- ◇動物園前の林務護岸をさらに延長するのか?
→護岸に頼る工法は考えていない。
- ◇ウミガメだけでなく、様々な生物に着目した調査を行って、これらに配慮すべき。
- ◇動物園前の林務護岸ができたことで、背後の保安林やゴルフ場から海に水が抜ける場所がなくなった。そのうちゴルフ場は水が溜まりだすかもしれない。
- ◇地盤沈下が侵食の原因になっていることも考えられるのでよく調査すべき。
- ◇レキ養浜の効果を調査するなら表面だけを追跡するのではなくて、砂浜の中の状態も調査すべき。

【次回以降の予定等】

- ・第8回勉強会は、平成20年11月6日(木) 住吉公民館 19:00~
- ・テーマは、歴史・風土の話
- ・次回に海岸利用者(サーファー)からの話を願うか、次々回に以降に願うかは個別に調整。
- ・勉強会、懇談会のこれからの進め方について現在事務局と検討しているところ。